

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歴史というとは、どんなことを思い浮かべますか。むかしのこと、古いこと、そしてそうしたことについて、ほこりっぽい書物や文書の塵をはらって、あれこれ調べること——。ひよっとして、そんなふうに思っていますか。

□ A、環境というとはどうでしょう。こちらは、つい最近のことや、いま起こっているなにか。さらにこれからどうなるかなど、ともかくわたくしたちを取り巻いているものもあるのありかた、ことがら……。たぶん、多くのひとはそう思っているかもしれません。

□ B、まったく間違っているわけではありません。でも、実はかならずしもそうではないのです。それを、これから少しお話ししてみます。

もう一度、もとへ戻って、歴史というとは、ともかく古いイメージがあります。反対に、環境というとは、新しいというか、現代風な雰囲気があります。極端に言えば、遅れたものとすんだものといっているのかもしれませんが。

ちよっと固い話になりますが、学問とか研究とかといいますと、これはもう□ I していることになっています。きっと、それは全般的にはそうなのでしようね。ところが、歴史という学問は、そのなかで、昔のままの「変わらない分野」に見えるがちです。かたや、環境研究はまさに今が「旬」というか、現実からのニーズも日ごとに多種多様となり、つぎつぎと新たな展開を遂げているように見えます。

でも、① そういったイメージは、半分以上は思い込みというか、錯覚にちかいかもしれません。歴史と環境——見た目

にはひどく縁遠いように思えるこのふたつは、本当はかなり似たものどうしなのです。しかも、お互いにお互いを□ パートナーとしていたりといってもいいのです。

ひるがえって、歴史ないしその研究というとは、無条件に文系、とりわけ※ 人文系という印象があります。おなじように、環境もしくはそれにかかわる分野は、ふつうは理系とされます。これは、おおむね常識とか※ 通念とかいった類いのものでしょう。

□ C、歴史にも理系のデータは必要なのです。かつては、たしかにいわれる文献史料だけで歴史の研究がなされていました。しかし、その後は考古データの利用や裏付け・相互検証はもちろんです。遺物・遺跡をはじめとするさまざまな「モノ」の面からの※ アプローチは当然のこととなっています。動植物・土壌・DNA・大気・気候なども含め、あらゆるものが歴史の資料となります。

というよりも、もともと文系や理系といった既存の枠などにかかわりなく、利用できるものすべてを使って過去のことがらを再構成するのが歴史研究というものだ、少なくともわたたくしは思います。そして、それはおそらく、わたたくしだけの考えではないでしょう。

□ D、歴史研究はなんらかの過去についての手がかりや痕跡をもとにしておこなわれます。そうした手掛かりの類いを、ひろく史料もしくは資料といっています。

( 中略 )

さて、歴史の研究というとは、ひよっとして日本史・東洋史・西洋史・世界史といった学校で教えられ、学習する教科目のよ

うなものと考えてはいないでしょうか。たしかに、歴史の専門家やそれを職業としている人たちも含めて、そう思い込んでい

る③むきは決して少なくないかもしれませんね。  
しかし、わたくしはそうは思いません。それどころか、学術研究というものは、いやもつと広く研究と呼ばれているものか

なりな部分は、多かれ少なかれ歴史研究の要素・側面をもって  
います。というのは、ほとんどの研究というものは、それまで  
の知識・情報・材料・データを使ってなされているからです。  
具体的な例をいくつか挙げてみましょう。  
事例のひとつは、世間では理系の学問分野とされているもの  
です。たとえば、医学において過去の症例を調べ、そのデータ  
を集めて分析することは、あたりまえのことです。それにかか  
わるそれまでの学説や治療法を知るのも、ふつうのことではし  
ょう。つまり、根拠となるものにとづいて、これまでの歩みを  
知り、現在に生かすというあり方は、ほとんど歴史研究にちか  
いものです。

そういたしますと、きつと、世間でふつうにいうところの歴史  
研究は、  
II と反論されそうです。

たしかに、残念ながらそういう面は否定できませんが、歴史研  
究も本当は現在をよりよく知るためにあります。そうでなけれ  
ば、むしろおかしいのです。いまふつうになされている歴史研  
究の多くが、過去のことだけにとどまっていることこそが問題  
なのでしょう。

医学のなかで、生命科学や再生医科学といった「先端科学」  
の分野は、まさに日々これ新たななりといえますか、「前」だけ  
を見ているように思えます。しかし、わたくしの知り合いの関  
係者によれば、それでも④いままでの研究や蓄積をたえず踏ま  
えつつ、また学びつつすすむほかはないそうです。やはり、歴

史研究の側面はゼロではないのでしょうか。

事例のふたつ目として、哲学・思想・文学といった分野はど  
うでしょうか。こちらは、文系の文系といえますか、人文学と  
いったりもするものななかでも、「きわめつけ」といつていい  
ものでしょう。たとえば、哲学・思想に関して、すべて自分の  
ことばで語り、自分の考えであみだした解釈・理念・※セオリ  
ーを説き、人間や人類についての真理・理想・指針を示す純正  
の哲学者や思想家も、きつといることでしょう。また、文学に  
ついては、その人自身が作家・小説家であることも、ままたある  
ことです。

しかし、ふつうには、それまであった哲学・思想・文学を、  
その歩みとともに研究する場合ははるかに多いとおもいます。  
つまり、ほとんどは、哲学・思想・文学という名の歴史研究を  
しているのです。もちろん、ときに作り手と研究する側と、  
⑤ひとりであつたつを兼ね備えていることもありま

す。しかし、  
そうであつても歴史的なアプローチであることは否定できませ  
ん。  
事例の三番目は、学問分野ではないことについてです。日ご  
ろ、さまざまな人たちがされている仕事のなかにも、実はそこ  
にかなり歴史研究の面があることばです。たとえば、※陶磁器製  
作のかたがたが、それまでの先人たちの作例をあれこれ調べ、  
また窯跡を訪ねて焼成方法を検討したり、器形・※釉薬・発  
色などについて伝承や記録・陶片といった手掛かりを通して研  
究し、また工夫すること——、これはまさしく歴史研究のひとつ  
つといわざるをえません。こうした例は、おそらく数限りなく  
あるのではないのでしょうか。

ようするに、歴史研究には、さまざまなあり方が大きく裾ひ  
ろがりにひろがっているのです。建築史・技術史・演芸史・絵

画史などなど、ことばの最後に「史」をつければ、みな歴史研究になってしまおうといつてもいいでしょう。別のいい方をするならば、歴史研究というものを、⑥決まった枠におしこめて固定的に考えるのは、本来はおかしいことだといわざるをえません。ちなみに環境史というのも、もちろん歴史研究のひとつです。

(杉山正明 『歴史を知ることと環境を考えること』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

人文系 …… 学問の分類のひとつ。

通念 …… 一般に共通した考え。

アプローチ …… 研究の対象に近づくこと。また、その方法。

セオリー …… 理論。考え方。

陶磁器 …… 焼き物。

釉薬 …… 焼き物に塗るうわぐすり。

問1  A  B  C  D にあてはまることばを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア では イ ところが  
ウ どちらも エ ようするに

問2  I にあてはまる四字熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 右往左往 イ 日進月歩  
ウ 一進一退 エ 七転八倒

問3 線①「そういったイメージ」とありますが、どのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史は古くから関係している人が研究しているが、環境は新しい人が研究をしているというイメージ。  
イ 歴史研究は古くから研究されているものであるが、環境研究は始まったばかりのものであるというイメージ。  
ウ 歴史は昔から変わらな古いことを調べ、環境研究は変化に富む現実にあわせて発展しているというイメージ。  
エ 歴史の研究は昔のままの研究方法のみを取り入れていて、環境研究は最新の技術を使い行われているというイメージ。

問4 ———線②「不可欠のパートナー」とありますが、筆者がそのように述べるのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史は文系の学問で、環境は理系の学問となっているが、文系も理系も学問には変わりないから。
- イ 歴史の文献資料には、遺物・遺跡のデータが必要であり、それらは環境を生み出すものであるから。
- ウ 歴史の研究には環境などの理系のデータが必要であり、環境を研究するためには過去の手がかりが必要となるから。
- エ 歴史は過去を調べるもので環境は未来を作るものであり、それらがつながって過去から未来へのアプローチとなるから。

問5 ———線③「むき」とありますが、文中の「むき」と同じ意味で使われているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもむきの番組。
- イ からだのむきを変える。
- ウ 理想主義に走るむきがある。
- エ ご希望のむきはお知らせください。

問6 II にあてはまる文として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 過去だけを眺めていて、現在を扱わないではないか
  - イ 過去を無視して、現在のみを扱っているではないか
  - ウ 過去を見ながら、現在をよりよく知るものではないか
  - エ 過去に目を向けず、現在のことも扱わないではないか
- 問7 ———線④「いままでの研究や蓄積をたえず踏まえつつ、また学びつつすすむ」とありますが、それと同じ内容をあらわしている部分を文中から十七字でぬき出しなさい。ただし、句読点なども字数に数えます。

問8 ———線⑤「ひとりですたつを兼ね備えている」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 哲学・思想・文学ができあがった経緯を研究し、その歴史について深く考察していくということ。
- イ 哲学を研究したり思想の研究をしたりしながら、文学を研究している作家・小説家がいるということ。
- ウ 古い時代の哲学・思想・文学などは研究せずに、自分がおこなっていることを表現していくということ。
- エ 哲学・思想・文学に関して、それまで研究されてきたことをふまえて自分の考えを自分のことばで語るということ。

問9

——線⑥「決まった枠におしこめて固定的に考える」とありますが、その「考え」にふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 陶磁器制作などの仕事には歴史研究の面はないものだとする考え。
- イ 歴史研究と哲学・思想・文学といった分野は関係がないものだとする考え。
- ウ 環境研究は理系の分野であるが歴史研究とつながりがあるものだとする考え。
- エ 歴史研究のあり方と理系の学問分野の研究のあり方はちがうものだとする考え。

問10

本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史研究と環境研究を同時に研究しようとするならば、医学・哲学・思想・文学などの多くの分野の研究をしないといけない。
- イ 歴史研究は文系の学問とされているが、理系の分野の研究材料なども取り入れていき文系や理系にとらわれずに研究していくものである。
- ウ 歴史研究は学校で教えられている教科目という面だけではなく、その研究の要素は他の多くの分野に通じ生かされているという面もある。
- エ 歴史研究は過去を調べるもので環境研究は新しい世界を切り開いていくものであるが、そのどちらも学問には変わりないので多くの研究者がいる。
- オ 歴史研究は文系の学問で環境研究は理系の学問であるが、研究方法はどちらも特徴が違うので医学・哲学・思想・文学すべてを研究している人もいる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学四年生の男の子ツヨシのパパと、女の子マコトのパパは小学生のころ親友だった。マコトのパパは、マコトが小さいころに亡くなっていた。マコトは、「小学校の番長になる」と宣言したが、番長といっても、誰よりも強く、優しく、友だち思いで、頼りになる存在だった。弱いものいじめをする六年生の三人組の「ガムガム団」は、マコトに何度も痛い目にあわされている。ツヨシと同じ四年生のジャンボ・タッチ・ハマちゃんもマコトには助けられている。

最初は、①聞きまぢがいだと思つた。でも、マコトは「聞こえなかつた？」と同じ言葉をもう一度くりかえした。

今度は、ぼくをびくりさせようとして、ウソをついてるんだと思つた。

だつて、マコトは一輪車に乗つてスーパーマーケットに買い物に行く途中だったんだ。ぼくは自転車でジャンボの家に遊びに行くところだった。たまたま道路で出くわして、そのまますれ違おうとしたら、マコトはぼくの前で一輪車をピタツと止めて、「ツヨシにいいこと教えてあげよつか」——そんなノリでしゃべつた一言なんだから、ウソや冗談としか思えないじゃないか。

でも、マコトは「ほんとだよ」と言つて、さつきと同じ言葉をまたくりかえした。

「わたし、転校するから」

聞きまぢがいぢやない。ウソでもない。マコトは、三学期が終わると、ぼくたちの前からいなくなつてしまう。

「びくりした？」

「……あたりまえだろ」

「でも、ほんとだから」

マコトは念を押して、「じゃあね」と一輪車をこいで走り去つてしまった。

ぼくは自転車をとめたまま、②ボーゼンとマコトを見送つた。

③マコトは一輪車のスピードをぐんぐん上げて、ぼくを振り向くことはなかつた。代わりに、くちぶえが聞こえた。ぼくたちの学校の校歌のメロディーだった。

ジャンボの家には、タッチやハマちゃんも集まっていた。みんなでゲームをしながら、おしゃべりの話題は自然と、四月のクラス替えのことになった。

いまは一月の終わり——あと二カ月で、四年生が終わる。五年生に進級するときにはクラス替えがあるので、ぼくたちが同級生でいられるのもあとちよつとだ。

「四人そろつて同じクラスつて、やっぱ、無理だよなあ……」ジャンボが言うと、ハマちゃんも「四年一組、最強だったのになあ」と寂しそうにならずいた。

「でも、クラス違つても、オレたちずっと友だちだよな！」タッチがガツポーズをつくつて、ぼくの肩をポンとたたいた。

「なっ？ ツヨシ」

「……うん」

④しよんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは「なんだよ、ツヨシ、もう落ち込んでんのかあ？」と笑つた。「だいじょうぶだいじょうぶ、授業中は別のクラスでも、休み時間に廊下に出たら、いつでも遊べるんだから」

「……うん」

「どうしたんだよ、ツヨシ、さつきから元気ないなあ」  
元気なんて出るわけない。頭の中はマコトのことでもいいっばい  
だ。

タツチたちには、⑤ まだ転校の話はしていない。べつに「ナイシヨだよ」とマコトに言われたわけじゃなかったけど、友だちにしゃべると、転校のことが「ほんとにほんとの、ほんとのこと」になってしまいそうな気がして……。

みんなのおしゃべりは、今度は「女子の誰と同じクラスになりたいか」になった。

「オレ、マコトは同じクラスでもいいかなあ」とジャンボが言った。

タツチやハマちゃんも、うんうん、とうなずいた。

「あいつがいるとスポーツ大会とか優勝しそうだし」「オレたちが六年生にいじめられても助けてくれそうだし」「コワそうな先生が担任になっても、マコトがいたらだいじょうぶだよな」……。

みんなの話を聞いてると、⑥ 急に胸が熱くなつて、泣きそうになつてしまった。

晩ごはんのときにマコトの転校のことを話すと、パパとママは⑦ 顔を見合わせて、二人そろつてため息をついた。

「ごめんなツヨシ、それ、パパ知ってたんだ」「ママも知ってたの。でも、ツヨシがかわいそうだから、言うきっかけがなくて」

なに、それ。

どうして……？

パパが事情を説明してくれた。

心の片隅かたすみで予感していたとおり、おばあちゃんの病気のためだった。もう自宅でお世話をすることは難しいし、大学病院に通うのも大変だ。それで、四月からは大学病院のある大きな市に引越ひすことに決めたのだという。

「おばあさんは一人で施設しせつに入らなくて言ったらいいんだけど、マコトくんが、どうしてもおばあさんのそばにいたいんだって言い張はつたらいいんだ」

パパはそう言つて、「マコトくんは、ツヨシたちより⑧ 一足早くオトナになつてるのかもしれないなあ……」と付け加えた。

二月になつても、まだクラスにはマコトの転校の話は広まつていない。知っているのはぼく一人きり、というわけだ。

マコトに口止めされたわけでもないし、「みんなにも言つていてよ」と頼たのまれたわけでもない。ほんとうに、あの日たまたま道ですれ違つて、ついだから感じて打ち明けられて……ぼくはどうすればいいんだろう……。

しかも、そんなぼくをさらに悩なやませるウワサ話が流れてきた。六年生のいじめっ子トリオ・黒田くん、戸山くん、榎本えのもとくんのガムガム団が、卒業を前に、マコトに仕返しをしようとたくらんでいる——らしい。

「いまは最上級生だけど、四月から中学に入ると一年生で下つぱになっちゃうだろ。だから、いまのうちに思いっきりいばりたいんだよ、あいつら」

六年生におねえちゃんがいるヒロスケが教えてくれた。

確かに、クリスマス会の日にマコトにやつつけられたあととはしばらくおとなしかったガムガム団が、三学期になるとまた下級生をいじめるようになっていた。二年生や三年生の子が泣きながら「マコトくんに言いつけるよ!」と言つても、へーん、

と笑うだけなのだという。

ほんとにサイターの六年生だ。

「ツヨシ、どうする？ ガムガム団のこと、マコトに教えてや  
ったほうがいいかなあ」

「……オレが話すよ、マコトに」

「一人で？」

「うん、⑨ 一人で話すから」

ガムガム団のことだけじゃなくて、一度マコトとゆつくり話  
したかった。転校するんなら『お別れ会』も開かなきゃいけな  
いし、寄せ書きの色紙をみんなに回す時間もいるし……いや、  
そんなことより、ぼくは、やっぱり……あいつに転校してほし  
くないから……。

（ 重松清 『くちぶえ番長』 一部改変 ）

問 1 ——— 線①「聞きまちがい」とありますが、(1)だれ

が、(2)だれの、(3)どのようなことばを、「聞きまち  
がい」だと思ったのですか。それぞれ文中からぬき出しな  
さい。

問 2 ——— 線②「ボーゼンとマコトを見送った」とあります

が、この態度からぼくのどのような様子がわかりますか。  
最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えな  
さい。

ア 急に呼び止められたので驚いて立ち止まり、腹を立てて  
いる様子。

イ 一輪車に乗って急いで立ち去られたので、そのスピード  
に驚いた様子。

ウ マコトが転校することを知って、会えなくなることを寂  
しく感じる様子。

エ いきなり予想していないことを言われ、すぐに話の内容  
を受け入れられない様子。

問3

——線③「マコトは一輪車のスピードをぐんぐん上げて、ぼくを振り向くことはなかった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 転校することを知らせて寂しさがあり、ふり返るとそれを一層感じてしまうと思ったから。

イ 急に声をかけて転校することを知らせると、予想以上に驚かれたので逃げていこうと思ったから。

ウ 一輪車に乗ることが得意で、かっこよく乗りこなしている姿を見せつけようと思ったから。

エ 今まで転校することを知らせるタイミングがなく、やっとならざるを得なかったから。

問4

——線④「しょんぼりとうなずく」とありますが、なぜですか。「くだから」につながるように文中から十五字でぬき出しなさい。

問5

——線⑤「まだ転校の話はしていない」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア マコトと二人だけの秘密にしておきたかったから。

イ もう少し待ってみんなを驚かせたいから。

ウ 転校を知ったらいじめっ子がよるこぶから。

エ 話をすることで現実のものとなってしまいそうだから。

問6

——線⑥「急に胸が熱くなって」とありますが、このときのツヨシの気持ちはどのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア マコトに守ってもらえなくなることで、学校での生活に不安を感じる気持ち。

イ マコトがほかのみんなと仲よくしていたことを知り、やきもちをやく気持ち。

ウ マコトの存在の大きさを感じ、マコトがいなくなることに對していつそう寂しく思う気持ち。

エ マコトにたよってばかりいる友だちの話聞いて、マコトを利用して怒っている気持ち。

問7 ———線⑦「顔を見合わせて、二人そろってため息をついた」とありますが、そのときのパパとママの気持ちはどのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア ツヨシにはマコトの転校の話をかくしていたが、なぜ知っているのか不思議に思う気持ち。
- イ やつとツヨシがマコトの転校の話を知り、情報を集めるのが遅いツヨシにあきれる気持ち。
- ウ パパとママがお互いに、マコトの転校の話をツヨシにこっそりとしたのではないかと疑う気持ち。
- エ すでにマコトの転校のを知っていたが、とうとう話さなければならぬ時が来たという覚悟の気持ち。

問8 ———線⑧「一足早くオトナになってる」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分よりも、ほかの人に気をつかうことができているということ。
- イ たくさんの友だちに頼りにされて、人気者になっているということ。
- ウ パパやママに相談することなく、自分で何でも決められるということ。
- エ 一輪車を乗りこなしたりいじめっ子をやっつけたりして、活発に動いているということ。

問9 ———線⑨「一人で話すから」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰にもマコトの転校のことを知られずにマコトにお別れの言葉を言いたいから。
- イ マコトに転校してほしいくない自分の気持ちを直接伝えたいから。
- ウ ガムガム団が仕返しに来るかもしれず他の友だちを巻き込みたくないから。
- エ 『お別れ会』や色紙を回すことなどマコトのしてほしいことを相談したいから。

問10 本文からわかる「マコト」の人物像としてふさわしくないので、ものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 正義感が強く、弱いものいじめが許せない。
- イ 友だちと仲良しで、いつもみんなに従っている。
- ウ 自分のことよりも、他人のことを大切にしている。
- エ 運動神経がよくて、何においても活発に活動する。

【三】 次の四字熟語の意味として、最もふさわしいものをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 急転直下
  - ② 因果応報
  - ③ 理路整然
  - ④ 以心伝心
  - ⑤ 電光石火
- ア その場その場に応じて、調子よくふるまうこと。  
イ 自分に都合よく有利になるようにすること。  
ウ 非常に短い時間。行動がすばやいさま。  
エ ことばや文字によらず、おたがいに思いが通じ合うこと。  
オ 自分のした行いにふさわしい結果が表れること。  
カ 待ち遠しくて、時間が長く思われること。  
キ 多くのちがいがあること。それぞれにちがっていること。  
ク 山や川などの自然の風景が美しいさま。  
ケ 物事の成り行きが変わって一気に決着がつくこと。  
コ 話や考え方などの筋道がきちんと通っていること。

【四】 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① チイキのお祭りを守る。
- ② コキョウを思い出す。
- ③ キガイを加える。
- ④ 日本最大のカンラン車に乗る。
- ⑤ 情報をテイキョウする。
- ⑥ 火山灰が積もる。
- ⑦ 天守閣から景色をながめる。
- ⑧ 合唱の指揮者に立候補する。
- ⑨ 王に忠誠をちかう。
- ⑩ 大舞台での度胸をはかる。

これで問題は終わりです。